



ふかし

深志神社社報 第2号

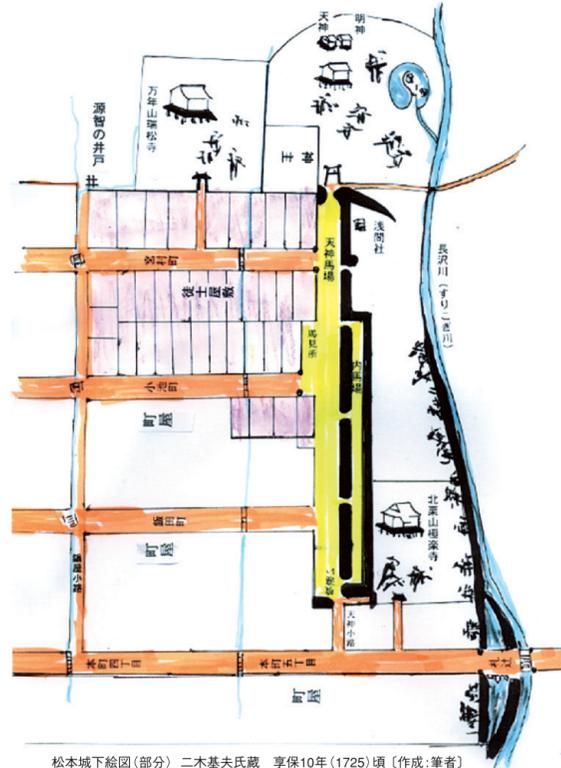
深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです



天神小路は、本町五丁目極楽寺の山門の直ぐ北にあります。小路の入り口から深志神社の大鳥居手前、大門までが天神小路です。

この小路が今のような姿に変わったのは、明治維新を迎えてからです。江戸時代には、ここには天神馬場が置かれていて、武士が乗馬の訓練をした場所でした。

馬場は本町の入り口から、本町の町人屋敷の奥行き三十三間(約六〇メートル)入ったところに木戸があり、その内馬場土塁の喰い違いから、東の宮村木戸の手前、土塁の端まで百四十一間(約一五七メートル)ありました。さらにこの土手を挟んで並行に幅三間、長さ百十一間(二〇二メートル)の内馬場があったので



松本城下絵図(部分) 二木基夫氏蔵 享保10年(1725)頃 [作成:筆者]

深志神社をとりまく歴史と文化 《1》 天神小路は天神馬場だった

松本市文化財審議委員 中川治雄

す。北側の小池町・宮村町は徒士屋敷でした。入り口には木戸が置かれていて、夜間の自由な通行は出来ませんでした。また馬場の東寄りには「馬見所」がありました。

この天神馬場が置かれたのは、石川康長が改易になった慶長一八(一六一三)年に、飯田城主であった小笠原秀政

が松本城に入った、その翌年の八月のことです。

宮村の地は、建武の新政後、足利尊氏から信濃守護に任命された小笠原貞宗が井川館に入ったとき、井川城鎮護のために近辺に鎮護の霊場を選んで勧請しようと考えていたので、諏訪明神の霊が夢枕に立つて、「井川城の長八丁離れたところに四神相應の地あり、この地に宮社を造立すべし、永く鬼門の守護となるであらう」とお告げがありました。貞宗は早速臣下に命じて、お告げのあった所に普請を行い、宮殿を建て、暦応二(一二三

三九)年九月に諏訪明神を祀りました。そこが宮村です。

小笠原秀政は、この宮村明神の鎮まる霊場に北野天満宮を勧請して、松本城と城下町の鎮護の神と崇め、併せて北野天神右近馬場を形どり、馬術の稽古場を新たに造り、天満宮にあやかっって天神馬場と名付けたのです。祭りにはこの馬場で流鏝馬も奉納されたことでしょう。

なお天満宮の棟札には由来が詳しく書かれています。およそ次のようです。

筑摩郡深志の畠の天満天神の廟は、自分の先祖がここに勧請して祭祀をしてきた。戦国の戦によって破廢し、断腸の思いである。昨冬、源秀政幸い此地の旧主として徳川幕府から本領を安堵された。この機に菅公の廟社を宮村神祠の北に移して新宮を經營し奉る。

その勧請の趣旨は、深志の城の災、幸たる霊場に勧請して菅公の神徳によって当場の鎮護を願ひ奉る。そのため京洛北野の廟宮に準じ奉り、万々世ここに天満宮を安置する、ということです。

現在の天神小路は、馬場の土手を削平して造られた小路です。

ふかし 深志神社社報第2号

発行日 平成18年7月1日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
印刷 (株)日本広告

R100 古紙配給率100%再生紙を使用しています。

【第二班】

宮村町 一・二丁目
宮村町の由来

◆江戸時代末の旧町名
町人町・中町の枝町の町名。南端には宮村大明神があり、信濃守護小笠原貞宗が井川に居館を構えていた頃の暦応年間(一二三三〜一三四二)に守護神として宮村の地に祀ったという伝承がある。地名の起こりもこの頃といわれる。江戸時代の初めに町割りが行われ、その後奉公人や職人などが多く集住した。

市内町内の旧町名「石碑」めぐり 《2》

宮村町



博労町

◆江戸時代末の旧町名
博労町の由来

博労町は松本城下の南出入り口に位置し、枝町十町の一つで本町に属していた。本町とは袖留



橋(現緑橋)を境とし、南の端には十王堂が置かれていた。古くは貢馬を集めて置いた所で馬町とか馬喰町と言われたが、元禄六年(一六九三)博労町に改められた。

長沢町

◆昭和初年の旧町名
深志神社の南、長沢川にそったあたりは晒屋と呼ばれていたが、明治四十年市町村制施行にとも



なつて筑摩村の一部が松本市に合併したのを機に長沢区とした。その後博労町東裏に、大正七年に筑摩部が開校、同八年に長野県工業試験所が開業した際に、町割りが行われ、常盤町・錦町・梅ヶ枝町・栄町など七区ができ、長沢町はその一地域の町名となった。(平成八年 竹内家前)

◆昭和初年の旧町名
竹平町 (現在長沢町会に属す)

大正十一年に長沢町が七区に分かれ七町が成立した際に自ら所有する土地を提供して町づくりに貢献した竹内愛人氏に因み、竹内家の中興の祖である氏の祖父の平米氏の姓名の各一字をとって竹平町とした。また同じころ成立した常盤・若松町の松、梅ヶ枝町の梅に竹が揃うと、松竹梅の縁起にも因むめでたい町名になることも加味されている。(平成八年 エム本庄駐車場前)

常盤町

◆昭和初年の旧町名
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その際この地は、松本の松に因んで常に変わらぬ常盤の松をイメージして永久不変を願って常盤町と命名された。(平成九年 精美堂印刷局)



栄町

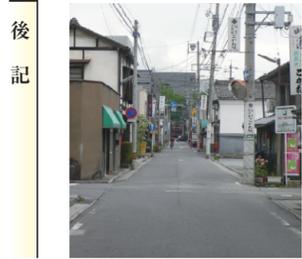
◆昭和初年の旧町名
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが栄町である。



◆昭和初年の旧町名
長沢町から大正八年に開設された長野県工業試験場正門までの道筋にそう町名である。この辺りは菅原道真(菅公)を祭る深志神社の宮本であるので、梅を愛でた道真に因んで梅ヶ枝町と命名した。(平成八年 水野家前)



この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。(平成九年 相沢病院開道紀年碑脇)



現在の天神通り

後記

▼第二号は天神祭りのご案内を柱に編集しました。中川治雄先生からは玉稿を頂戴できましたことを深謝申しあげます。なお、天神通りでは市による「想いやりの道づくり」が計画中です。その推進にも参考になれば幸いです。▼記事にありませんように、当社では遠藤宮司の新体制の下にご奉仕してまいりますのでよろしく願い申し上げます。

▼第三号は12月予定です。

もうすぐ天神祭りです 7月24日 25日

松本に夏の到来を告げる

深志神社の例大祭である天神祭りが近づいてきました

【一宮神】 当社のご本殿が二殿あるのはご存知です。向って右が宮村宮(諏訪明神 建御名方命)を、そして左が天満宮(天神さま 菅原道真公)をお祀りしています。もこの地には南朝時代のはじめ、諏訪明神が信濃守護小笠原氏により祀り始められ、のち深志(松本)の鎮座の神とされました。

【お祭り日】 毎年、もっとも大切なお祭りである例祭りが行われる月日は、はじめは諏訪明神の祭日である9月9日でした。江戸時代になり、一六三四年より天満宮が遷座され



【天神祭りー舞台・神輿】 城下町の町人としての心意気と誇りをしめす氏子町内の舞台の由来は、城主小笠原忠真公が一六一五年、大坂夏の陣への出陣にあたり当社へ武運を祈願し、戦勝の御礼として神宝・社領などを寄進され、さらには南深志13ヶ町に舞台を作らせられたことに始まると伝えられています。に及んでいます。

には、多くの参拜者で賑わいます。また2基(宮村宮と天満宮)の神輿は、一六九八年に城主水野忠直公から寄進され(市重要文化財)以降、例祭当日の25日に氏子各町内を神幸される伝統は、時代とともにかたちをあらたにしつつ、今に受け継がれています。

八坂祭のご案内 7月14日 15日

当社におまつりする八坂さまは、病氣除け・虫封じなどおもに子どもたちの健やかな成長を祈る守り神として慕われています。7月14日の宵祭には、願いをこめて浄書した五色の幟を奉納する多くの子どもたちのお参りで境内はにぎわいます。



【お祭りについてお願い】 町内に張られた注連縄を取り外すのはお神輿が通られた後とさせていただきます。

節分祭の斎行

2月3日午後2時に拝殿前で豆炒り式、午後5時より節分祭を斎行し、立春にあたり諸々の邪気を祓い、また氏子・崇敬者の無病息災・家内安全、氏子繁栄・五穀豊饒・四海平靜・国運隆昌、天下泰平・皇祚無窮が祈願されました。



また、子供たちが安全に拾うことができると新設した子供コーナーも充実していきます。

深志神社の神さまが、年に一度、町内を巡られます。どうぞお迎えください。



平成18年度 深志神社例大祭(天神祭り) 御神幸式 神輿渡御巡路 A(車載) 宮村宮 7月25日(火) 午後2時~6時

自動車による神輿渡御巡路は本年度より西(鎌田)先回りと東(清水)先回りとは隔年となります。本年度は東(清水)先回りです。

神輿渡御巡路 B 天満宮



信州松本松深会ほかの人により、かつがれて渡御します

天神祭り 白丁奉仕者を募集します!



御神輿を先導する白丁奉仕者

深志神社例大祭で、御神輿・威儀物(神様を御守りする盾、鉾など)のご奉仕ができる方を募集しています。伝統ある祭儀に直接体験できる、またとない機会です。

遠藤久芳宮司 宮司就任、身分昇進祝賀会



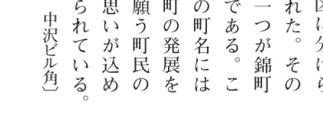
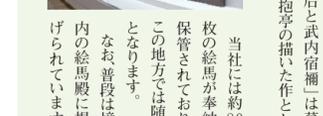
「遠藤久芳宮司 深志神社宮司就任並に神職身分昇進祝賀会」が5月29日、当社梅風閣において二百人を超える多数の方々の臨席を得て開催されました。

者が招かれ、会場内は遠藤宮司を激励する人々で溢れかえりました。発起人を代表して齋藤行長より挨拶があり、御来賓の坪田明男助役、萩原清興議長、下条みつ衆議院議員各氏からの心こもった祝辞をいただきました。

発起人として長野県神社庁長・長野縣護國神社宮司齋藤吉仁氏、副宮司長・穂高神社宮司小平弘起氏、副宮司長・諏訪大宮司平林成元氏、深志神社氏子総代会会長金井利廣氏、同副会長水野秀一、中村欽哉両氏、前松本市長有賀正氏、長野県神社庁松本支部支部長宇治橋淳氏八名の皆様による祝詞会(事務局長 深志神社事務所)の主催によるものです。

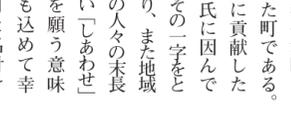


当日は神社界のみならず多方面の関係者もご参加くださいました。



松本深志舞台保存会だより《2》 小池町舞台修復竣工

昨年7月、魂抜きなどの神事を行い、解体工事を行った小池町の舞台が、修復を終えて美しい姿で復元され、4月24日竣工報告、魂入れ神事が執り行われました。明治27年に造られて以来、百十一年ぶりの大改修です。



文化財シリーズ《1》 「神像」等の出展 新春絵馬展への出品

平成17年9月松本市松本市教育委員会・国宝松本城解体五十周年記念事業実行委員会主催「未来に伝える私たちの松本城展」(松本市立博物館)に、当社の神像(菅原道真公像、厨子・宮形と小笠原氏二階菱紋付鎧)が出品されました。

